

ねじねね

VOL. 3, NO. 1 & 2 (Oct. 1958) - 近畿甲虫同好会々報-

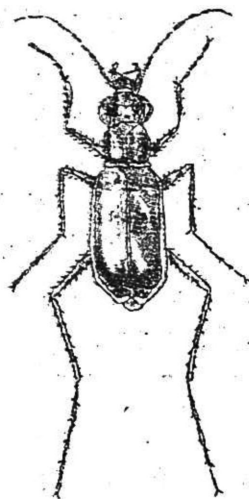
ハンミョウ類採集の一方法

後 崎 光 男

大隈の北を流れる淀川の十三大橋の下方ヤ神崎川の加島橋の左岸付近では干瀬時になると岸に近いところの川底の泥土が姿を見せ、又岸辺に近い湿地帯のアシヤスゲ科の雑草の茂つたところの水も引いて入りこめる場所が数々にできるが、このようなところには6月から9月の始めにかけて澤山のエリザハンミョウが群つており、場所によつては数多いコハンミョウやまれにはシロヘリハンミョウの淀川亜種が

混つていたり、シロヘリハンミョウだけしかないところもある。このような草の茂つていて、しかも下が泥土のところでは採集も仲々面倒である。草が無く真黒の泥土が露出したところでは掃虫網を使つてもドロドロの泥土が氣になつて十分に網を振ることができず、無理にネツトを振ると足も出ず、ただ追い出されて付近の葉上や幹に止つたものだけを捕える位が隣の山で、能率の上らないことおびただしい。

筆者は以前かうこのような場所での採集は弊り次のような方法で採ることにしてゐるが、なかなか効果がい。友人連中はこの



と最初は度いかだんだん網が泥土にまみれ濡つてきてハンミョウを捕うより泥土を掃う方が多くなつてくる。又草の茂つたところでは下草が障の衝き程度であればまだ良いけれども丈余のアシの残みでは網も無用の長物で、ハンミョウが草の腐の地面をチヨロチヨロ走り廻るので手

方法を“下敷採集”と名付けてくれたが、蠅叩きで蠅を叩くあの方法で、用具は蠅叩き・ボール紙・ブリキ板等蠅を叩けるものであれば何でもよく、向に合せに週間紙の2つ折や新聞紙の8つ折で代用しても差支えなれが、やはり夫々一長一短があつて、筆者の経験では事務用のセルロイド、合成樹脂等の下敷がもつとも具合がよく、寸法も25×10粒位が使いよい。蠅叩きでは少しく長すぎるし又折り曲る心配があり、ボール紙では泥土がつく度に湿つてきて使いにくく、週間紙や新聞紙では湿る上に紙全体に均等な力加わりず、叩きつけたつもりでも逃げられたりして、この裏で下敷は上述のような心配が殆んど少なく、もつとも適している。

採集の方法はハンミヨウの群つているところに踏みこんで叩きふせればよい訣で、上記の種はあまり飛ばないし、飛んでも距離が短かくすぐ手近のところに飛び降りてチヨロチヨロ走りすぐ止る。この止つた瞬間をぬらつて叩く訣で、あまり強すぎると虫体は破損しなくともアンテナや脚を痛める。とかし馴れてくると叩き加減が判つてきて、泥土に埋めるように叩き伏せた完全な個体を短時間にしかも数多く採ることが出来る。文余の草間であれば叩き伏せて採る以外に手はないようで、王リザハンミヨウの場合には向近に水の溜りや流れがあればこれに追ひこんで水に溺れる個体を採集するのち一方法である。

筆者は上の三種の外にニワハンミヨウ・コニワハンミヨウ・ドイツハンミヨウ・ハンミヨウでも“下敷採集”を試して見たが、飛び距離が長く、又地面がかたい場所が尋いたため前記のようにならぬ場合には行かず、虫体を痛める事が多かつた。

新入会員

239
240
241
242
243
244
245
246
247

248
249

住所変更 (32年10月～33年8月5日)

205
157
6
225
120
54
26
67
171
133
140
177
62

退会

114
186
116
176

会員名簿 (ぬいれぼぬ, Vol. 2, Nos. 1/2) 誤植

35
224
68
196
72
139

月例会 (於大阪市立自然科学博物館)

第1回例会 昭和32年11月16日 テーマ: 標本の上手な作り方

出席者: 足立公夫, 藤田国雄, 後藤光男, 林匡夫, 林靖彦, 日浦勇, 井上貞信, 神吉正雄, 森内茂, 岡田盛徳,
芝田太一, 柴田保彦, 澤田純一

第2回例会 昭和32年12月21日 テーマ: 今年の結果

出席者: 足立公夫, 藤田国雄, 後藤光男, 林匡夫, 林靖彦, 日浦勇, 生谷義一, 井上貞信, 神吉正雄, 河野洋,
大倉正文, 柴田保彦, 横山創

第3回例会 昭和33年1月18日 テーマ：本年の計画

出席者：後藤光男、林匡夫、林靖彦、日浦勇、河野洋、芝田太一、柴田保寿、上村清

第4回例会 昭和33年2月22日 テーマ：春し

出席者：藤田国雄、後藤光男、林匡夫、林靖彦、日浦勇、生谷英一、神吉弘規、河野洋、中川宗太郎、大倉正文、岡田康徳、寺若崎一、酒巻良平、芝田太一

第5回例会 昭和33年3月22日 テーマ：早春の昆虫

出席者：後藤光男、林匡夫、日浦勇、生谷英一、神吉弘規、嘉納秀明、河野洋、大倉正文、柴田保寿

第6回例会 昭和33年4月26日 テーマ：昆虫の生態

出席者：足立公夫、後藤光男、林匡夫、林靖彦、大倉正文、横山創

第7回例会 昭和33年5月24日 テーマ：岩湯山の昆虫

出席者：藤田国雄、後藤光男、林匡夫、林靖彦、河野洋

第8回例会 昭和33年6月29日 テーマ：東南アジアの昆虫(大阪朝大澤吉川公雄氏)

出席者：藤田国雄、林匡夫、日浦勇、河野洋、大倉正文、岡田康徳、佐藤純、柴田保寿、辻本修、杉本修吉

第9回例会 昭和33年8月23日 テーマ：春し

出席者：藤田国雄、後藤光男、林匡夫、林靖彦、河野洋、大倉正文、芝田太一

昭和32年度収支計算書

収入の部

入会金	900-
会費	48,435-
バツリツバ 費上代	8,750-
印刷代	11,400-
原色印刷	8,500-
大会々費	2,550-
雑収入	522-
前期繰越金	52,536-
合計	133,593-

支出の部

印刷費	57,757-
通信費	6,596-
消耗品費	2,730-
大会費	6,350-
幹事会費	520-
雑費	185-
合計	74,138-

差引

次期繰越金 59,455-

原稿お願い

「ぬいねばぬ」に皆さんの原稿を寄せて下さい。
短報、採集紀行、雑文、招介等 なんでも掲載します。

送り先 大阪府泉北郡高石町北609 後藤光男

近畿甲虫同好会・神戸市東灘区御影町天神山46☆ 本報に關しては上記、後藤光男也。